

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	釧路町児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○訪問先施設評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的なアセスメントを基に、家庭や訪問先と情報共有を行い、お子さん一人ひとりに応じた一貫性のある支援を実践している。	アセスメントを基に支援方針を整理し、家庭、訪問先と具体的な支援内容を共有、調整している。	職員研修の実施。 訪問先、ご家族との連携の強化を図る。
2	目標や支援内容を具体的に示した支援計画を作成し、家庭、訪問先と共有することで、共通理解に基づく支援を実践している。	保護者と面談、訪問先施設の職員との話し合いを設け、児のアセスメントを行った上でどの部分を目標にするべきなのかを考えた支援計画を作成している。	支援計画の実施状況を振り返り、家庭、訪問先と連携しながら見直しを行い、支援の質の向上に繋げていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	心理の専門職が常駐していないため、情緒面や行動面に関する専門的な助言が十分に行えない場面がある。	福祉施設の慢性的な人材不足が原因と考えられる。	非常勤の専門職と連携を図り、様々な視点から支援を行う必要がある。
2	訪問員が他の業務と兼務していることから、支援日数や訪問回数の調整に制約が生じる場合がある。	訪問員が兼務体制であることや、対応可能な職員が限られていることにより、突発的な調整や柔軟な対応が取りにくい状況がある。	業務分担の見直しや人材育成を進め、訪問支援に充てる時間を確保できる体制づくりに取り組む。
3			